

連載

いのち ひろば

(72)

毎月1回、中旬の水曜日に掲載



ほりまさし 1988年3月杏林大学医学部卒業。2008年11月小田原市国府津に診療所開設。

小田原市休日夜間急患診療所

未来への変貌

県西地域の医療における役割と責任

小田原医師会

理事 甫守 正史

【新型コロナウイルス感染症】

(SARS-CoV-2)流行の中で耐えた。ウイルスは嘲笑した。感染流行は多くの問題を提起する。現在の医療における脆弱性、そして知られざる医療現場の問題を浮き彫りにした。日本における医療はこれらの問題に真摯に受け止めて解決しなければならぬ。ウイルスは人類に警鐘を

小田原市休日夜間急患診療所(以下、急患診療所)は新型コロナウイルス感染症

すだ歯科クリニック

院長 須田 寛紀

小田原市休日急患歯科診療所は昭和63(1988)年12月4日に開設し、小田原医師会、小田原薬剤師会、県西地域二市八町の行政と連携して運営しております。現在の診療日は日曜日、町、真鶴町、湯河原町の歯科

小田原市休日夜間急患薬局

管理薬剤師 渡邊 敏貴

小田原市休日夜間急患薬局は設立から46年目を迎える。現在の保健センターに移って35年以上が経ちました。公益社団法人小田原薬剤師会の会員薬剤師約50名

を見抜く。混乱を生じることがある。恐怖に憑りつかれた人々はウイルス感染対策担当を二方向的に責め立てる。人を守る倫理を主張しながら自己防衛を画策する。

【アベノマスク】

急患診療所は未曾有の感染流行の対応に苦慮した。流行当初は政府や専門家から様々な対策が提案され、行錯誤で感染対策が行われた。ウイルス感染の世界的な流行は国や社会、そして日常生活の自由を人から奪い、制約を強いることになった。

【一筋の光明】

この苦境の中で職員一人ひとりの心の中にある思いが沸き起こっていた。医療に従事する者として何をやっているのか。その気持ちに気づいた時、原思に立ち戻る一言が心の壁(ひだ)から絞り出された。

【急患診療所の勤務体制】

急患診療所の運営は約半世紀となる。この長い時間がかつた社会的な変遷に急患診療所の体制は対応してきたが、将来に繋がる診療として維持できるかどうかは危惧されている。現在、医師、看護師、医療事務など医療従事者の不足は社会問題となっている。

【病診連携への期待】

地域医療は一つの医療機関だけで行うことはできない。地域におけるそれぞれの医療機関がその立場における役割を果たしながら様々な医療に尽力しなければならぬ。その中で病診連携は極めて重要性であり、各医療機関は専門性、設備を積極的に良心的に提供する

【未来への変貌】

良い職場環境は人間関係が円満である。人間は個々の価値観から生まれる喜怒哀楽から解放されることはない。日常生活、仕事において感情をコントロールしなければ他人

疲弊した。やがて残念ながら職員にも感染者がでるようになり、またその状況に耐えることができない退職者など職場を離れ、そして職員から不満が噴出した。職員が苦悩を訴えることが新たな新型コロナウイルス感染流行時における事務長の辛労苦辛は筆舌に尽くし難い。

【二筋の光明】

この苦境の中で職員一人ひとりの心の中にある思いが沸き起こっていた。医療に従事する者として何をやっているのか。その気持ちに気づいた時、原思に立ち戻る一言が心の壁(ひだ)から絞り出された。

【急患診療所の勤務体制】

急患診療所の運営は約半世紀となる。この長い時間がかつた社会的な変遷に急患診療所の体制は対応してきたが、将来に繋がる診療として維持できるかどうかは危惧されている。現在、医師、看護師、医療事務など医療従事者の不足は社会問題となっている。

【病診連携への期待】

地域医療は一つの医療機関だけで行うことはできない。地域におけるそれぞれの医療機関がその立場における役割を果たしながら様々な医療に尽力しなければならぬ。その中で病診連携は極めて重要性であり、各医療機関は専門性、設備を積極的に良心的に提供する

【未来への変貌】

良い職場環境は人間関係が円満である。人間は個々の価値観から生まれる喜怒哀楽から解放されることはない。日常生活、仕事において感情をコントロールしなければ他人

と穏やかな関係を築くことはできない。その術(ずべ)を身につける方法は唯一教育である。人は生まれた瞬間から学び、育つ。たとえは、授乳は母親と子の共同作業である。子は授乳という生きるための手段から、信頼と連携、理解と協力、優しさと思いを学び、そしてそこから教えるを受ける。教育は幼少時より年齢に応じて行われるが終わることはない。

【未来への変貌】

良い職場環境は人間関係が円満である。人間は個々の価値観から生まれる喜怒哀楽から解放されることはない。日常生活、仕事において感情をコントロールしなければ他人

【急患診療所の勤務体制】

急患診療所の運営は約半世紀となる。この長い時間がかつた社会的な変遷に急患診療所の体制は対応してきたが、将来に繋がる診療として維持できるかどうかは危惧されている。現在、医師、看護師、医療事務など医療従事者の不足は社会問題となっている。

【病診連携への期待】

地域医療は一つの医療機関だけで行うことはできない。地域におけるそれぞれの医療機関がその立場における役割を果たしながら様々な医療に尽力しなければならぬ。その中で病診連携は極めて重要性であり、各医療機関は専門性、設備を積極的に良心的に提供する

【未来への変貌】

良い職場環境は人間関係が円満である。人間は個々の価値観から生まれる喜怒哀楽から解放されることはない。日常生活、仕事において感情をコントロールしなければ他人

啓発される教育を謙虚に受け、育つ。たとえは、授乳は母親と子の共同作業である。子は授乳という生きるための手段から、信頼と連携、理解と協力、優しさと思いを学び、そしてそこから教えるを受ける。教育は幼少時より年齢に応じて行われるが終わることはない。

【未来への変貌】

良い職場環境は人間関係が円満である。人間は個々の価値観から生まれる喜怒哀楽から解放されることはない。日常生活、仕事において感情をコントロールしなければ他人

【急患診療所の勤務体制】

急患診療所の運営は約半世紀となる。この長い時間がかつた社会的な変遷に急患診療所の体制は対応してきたが、将来に繋がる診療として維持できるかどうかは危惧されている。現在、医師、看護師、医療事務など医療従事者の不足は社会問題となっている。

【病診連携への期待】

地域医療は一つの医療機関だけで行うことはできない。地域におけるそれぞれの医療機関がその立場における役割を果たしながら様々な医療に尽力しなければならぬ。その中で病診連携は極めて重要性であり、各医療機関は専門性、設備を積極的に良心的に提供する

【未来への変貌】

良い職場環境は人間関係が円満である。人間は個々の価値観から生まれる喜怒哀楽から解放されることはない。日常生活、仕事において感情をコントロールしなければ他人

小田原市休日夜間急患診療所の体制について

小田原市休日夜間急患診療所
休日や夜間に急に発症した方の診療を目的とした一次救急の医療機関です。軽症の患者様を対象としていますので、症状によっては、重症患者様を受け持つ「二次救急病院」へ受診していただくことになります。応急処置を目的としていますので、受診後はかかりつけ医を受診するなど適切な医療を受けてください。

〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂2-32-16
☎0465-47-0823 駐車場(第1~4)あり
https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/nighttime/

診療科と受付時間	※ 12月29日~1月3日の6日間は休日の診療をします。		
	平日(夜間) 午後7時~同10時	日曜・祝日(昼間) 午前8時半~同11時半 午後1時~同3時半	土曜・日曜・祝日(夜間) 午後6時~同10時
内科	○	○	○
小児科	○	○	○
耳鼻咽喉科		○	
眼科		○	
歯科		○	

小田原医師会より住民の方々へ

小田原医師会地域医療連携室
☎0465-47-0833
月曜~土曜(日曜、祝・休日、12/29~1/3休み)
午前9時~正午/午後1時~午後5時

医療機関検索は小田原医師会のサイトから利用できます
https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/

小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町の方対象
小田原医師会地域医療連携室では、医師による電話相談を行っています。無料です。事前にお電話ください。☎0465-47-0833

3月	4月
3/1 内科	4/1 内科
3/2 小児科	4/2 小児科
3/3 耳鼻咽喉科	4/3 耳鼻咽喉科
3/4 眼科	4/4 眼科
3/5 歯科	4/5 歯科

次回4月中旬に「災害と医療について」関東大震災から100年」を掲載予定です。